2019年度　徳島県立文学書道館　文学講座

芸術・文化を語る　無料

徳島ゆかりの芸術家や文化人に専門分野の話をしていただき、
心豊かな生き方について考えます。

定員　先着80人

① 4/27（土）
体験から小説へ

講師
山本 渚
（小説家）

1979年徳島市生まれ。城北高校、香川医科大学看護学科卒。その後就職、結婚に伴い各地を転々とする。2015年、徳島に帰郷。高校時代の体験をモチーフに書いた「吉野北高校図書委員会」で、08年に第3回ダ・ヴィンチ文学賞編集長特別賞を受賞。18年、「アップル・デイズ」で第17回女による女のためのR-18文学賞友近賞を受賞。著書に『吉野北高校図書委員会』シリーズ3巻（MF文庫）、『しらさぎ看護大学恋愛カルテ』（同）など。

② 5/18（土）
父・桧瑛司と民謡探究

講師
桧 千尋
（舞踊家）

1963年鳴門市生まれ。徳島市在住。幼少より現代舞踊、日本舞踊、民俗芸能に囲まれた環境の中で育つ。現在、あすなろバレエスタジオを主宰し、後進の育成に努める傍ら、徳島の自然を舞台にした「阿波遊行」公演を開催。また父・桧瑛司が遺した徳島の民俗芸能の資料をデジタル化し、それを基にCDや写真展へと展開中。県芸術祭新人賞（1986年）、県芸術祭優秀賞（91年）、県芸術祭奨励賞（96年）、阿波文化創造賞（2008年）などを受賞。

③ 6/22（土）
近代徳島の美術家を掘り起こす

講師
江川佳秀
（県立近代美術館学芸員）

1958年徳島市生まれ。早稲田大学大学院文学研究科を修了し、県文化の森建設事務局に就職。県立近代美術館開館後は同館学芸員を務めている。専門は日本近代美術史。特に日欧および東アジア諸地域間の美術交流を研究。地域の美術の掘り起こしにも務め「山下菊二展」（1996年）、「近代徳島の美術家列伝」（2000年）、「没後20年 中原淳一展」（03年）、「西洋美術との出会い 徳島の4人」（13年）などの展覧会を企画、開催。

④ 7/27（土）
石牟礼道子の人と文学

講師
米本浩二
（毎日新聞記者 / 作家）

1961年東みよし町生まれ。早稲田大学教育学部英語英文学科卒。在学中「早稲田文学」の編集に参加。87年、毎日新聞社入社。現在、西部本社報道部学芸グループに所属。2013年『みぞれふる空－脊髄小脳変性症と家族の2000日』（文藝春秋）を刊行。17年に『評伝　石牟礼道子－渚に立つひと』（新潮社）を出版し、18年に第69回読売文学賞評論・伝記賞受賞。石牟礼道子資料保存会の発足とともに研究員として参加している。

時間　14:00 ～ 15:30（受付 13:30 ～）

場所　県立文学書道館2階講座室

【申し込み方法】
下記の項目をご記入のうえ、**はがき、FAX、メール**のいずれかでお申し込みください。
当館1階受付でも申し込めます。
・芸術・文化を語る　・受講希望の番号と講師名　・郵便番号　・住所　・氏名（ふりがな）
・年齢　・電話番号（中止などの緊急連絡に必要ですので必ずご記入ください）
＊全回受講もできます。

〈申し込み・問い合わせ〉

徳島県立文学書道館
〒770-0807　徳島市中前川町2丁目22-1
TEL 088-625-7485　FAX 088-625-7540
メールアドレス kotonoha@bungakushodo.jp